

## 第10回 信州登山案内人試験【共通問題】

各設問の解答を、解答用紙に記入すること。

(信州登山案内人条例、長野県登山安全条例)

問1 信州登山案内人条例第2条に規定する「信州登山案内人」になる資格を有しない者を2つ選びなさい。

- (ア) 信州登山案内人の信用を失墜させる行為をしたことにより登録を抹消された者で、当該抹消の日から5年を経過しない者
- (イ) 虚偽又は不正の事実に基づいて登録を受けたことにより登録を抹消された者で、当該抹消の日から2年を経過しない者
- (ウ) 成年被後見人又は被保佐人
- (エ) 心身の障害により、登山の案内を適正に行うことができない者

問2 信州登山案内人条例上、信州登山案内人の禁止行為としてあてはまるものを2つ選びなさい。

- (ア) 登録の有効期間が満了している場合に、登録更新の手続きをしないこと。
- (イ) 特別な理由がない場合に、登山等の案内にかかる所定の料金以外の金品を請求すること。
- (ウ) 登録証の記載事項に変更があった場合に、当該箇所の修正を自らすること。
- (エ) 山岳の魅力を伝えるため、信州登山案内人が登山等の案内を受けるよう勧奨すること。

問3 信州登山案内人条例及び長野県登山安全条例上、信州登山案内人の業務を通じて期待される効果としてあてはまるものを2つ選びなさい。

- (ア) 登山者の本県への誘客を促進すること。
- (イ) 登山者に対し、本県の山岳の地理的・自然的の理解を深め、自然環境を保全すること。
- (ウ) 登山者の安全を確保し、山岳遭難の発生件数を減らすこと。
- (エ) 登山者に対し、本県の山岳の歴史的・文化的事象の理解を深めること。

問4 長野県登山安全条例上第2条に規定する「登山者」の定義にあてはまるものを2つ選びなさい。

- (ア) 遊歩道をハイキングする者
- (イ) 山岳で一般的な狩猟を行う者
- (ウ) 里山で山菜取りを行う者
- (エ) 登山を行う者に付き添って案内を行う者

問5 長野県登山安全条例上、登山者の責務及び遵守事項としてあてはまるものを2つ選びなさい。

- (ア) 山岳の特性を知り周到な準備を行い、安全な登山に努めること。
- (イ) 「信州 山のグレーディング」を参考に、自らの体力・技術に応じた登山をすること。
- (ウ) 万が一の遭難に備え、山岳保険に加入するよう努めること。
- (エ) 山岳（指定登山道）を通行しようとするときは、単独・パーティ登山にかかわらず、全員が登山計画書を届け出ること。

(自然公園)

問6 次の文中①～⑥にあてはまるものを選択肢から選び、記号を記入しなさい。

1. 自然公園法で定める自然公園とは、国立公園、国定公園及び①をいう。  
(ア) 国民公園 (イ) 国営公園 (ウ) 都市公園 (エ) 都道府県立自然公園
2. 環境大臣は国立公園について、都道府県知事は国定公園について、当該公園の景観を維持するために、特に必要があるときは、公園計画に基づいて、特別地域内に②を指定することができる。  
(ア) 特別保護地区 (イ) 利用調整地区 (ウ) 風景地保護地区 (エ) 第1種特別地域
3. 長野県の自然公園面積は県土の約21% (約28万ha) を占め、全国第③位の広さを誇る。  
(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 4
4. 御岳県立公園は、長野県と岐阜県の県境に位置する独立した活火山である御嶽山と、その山麓に広がる御岳高原、開田高原、寒原高原などから構成される自然公園である。御嶽山の山頂部には5つの湖沼があり、④は、わが国で最も高い標高にある火口湖である。  
(ア) 一ノ池 (イ) 二ノ池 (ウ) 三ノ池 (エ) 四ノ池
5. ⑤県自然環境保全地域は、標高2,038mで県下屈指のブナ林とクロベ、オオシラビソ、ミヤマナラ等優れた天然林が分布し、落葉樹林から針葉樹林へ推移する貴重な垂直分布を持つ。東斜面は、高さ300～400mの中津川の地溝状断崖が2～3km連続している。  
(ア) 鳥甲山 (イ) 苗場山 (ウ) 鍋倉山 (エ) 天狗山
6. 長野県は、全国に23座ある3,000m峰のうち⑥座を有している。  
(ア) 12 (イ) 15 (ウ) 18 (エ) 21

問7 自然公園の普通地域内で国又は県へ届出が必要な行為について、あてはまるものを2つ選びなさい。

- (ア) 鉱物を堀採し、又は土石を採取すること。
- (イ) 土地の形状を変更すること。
- (ウ) 動物を放つこと (家畜の放牧を含む。)
- (エ) 火入れ又はたき火をすること。

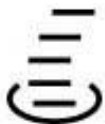
問8 令和2年3月に国定公園に指定された中央アルプス国定公園内に山頂の一部が含まれる山を2つ選びなさい。

- (ア) 経ヶ岳
- (イ) 南木曾岳
- (ウ) 風越山
- (エ) 恵那山

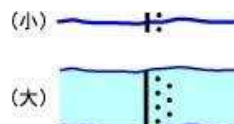
(読図)

問9 次の地図記号は、それぞれ何を表しているか記入しなさい。

①



②



③



問10 次の文中①～⑦にあてはまる用語を記入しなさい。

(同一の番号には、同じ解答(記号)が入ります。)

1. 山歩きでは様々な地図が使われているが、これらの地図の基となるのが、が発行する地図である。中でも、縮尺地形図と縮尺地形図は、国土の全域をカバーする最も基本的な地図として利用されている。
2. 等高線とは「高さの等しい地点を連ねた線」だが、2万5000分の一地形図では、高さ10メートル間隔で引かれたと、50メートル間隔で引かれたで構成されている。ごくならかな斜面では、破線で描かれる5メートル間隔(場所によっては、さらに2.5メートル間隔)のを用いて地形を表現することもある。
3. 等高線から尾根や谷、鞍部(コル)といった山の地形を読むとき、始点となるところをという。ここを見つけるためには、等高線の最小の輪を探す。輪の大きさや形はさまざまだが、この最小の輪が周囲より高くなったところ、すなわち地形としてのである。

※出典：佐々木亨 著「学べる！山歩きの地図読み」山と溪谷社

(植物、植生)

問11 次の文中①～④にあてはまる用語を記入しなさい。

1. 地球の生物が互いに様々な相違をもちながら関わり合って存在することをといい、この中には、遺伝子、、生態系の各レベルの多様性が含まれる。
2. 地球上の限られた場所にのみ生息する種(固有種)が集中して分布し、またその生態系が危機にさらされている場所をといい、世界では日本もそのひとつである。日本国内では、本土の島々の山頂部と離島に固有性の高い植物の分布が集中する。
3. 長野県では標高2,500m前後に森林限界がある。その上部には低く匍匐するように枝を広げるマツ科の常緑針葉樹であるの優占する群落が広がり、またその周辺には地形・地質・斜面方位などにより高山植物の多様な群落が分布する。

問12 次の文中①～⑥にあてはまるものを選択肢から選び、記号を記入しなさい。

温暖な気候帯にある日本で、高山植物の生育する環境の形成に深く関わっているのが冬の強い季節風と多雪である。中部山岳域のでは雪が風に吹き飛ばされるため、冬から春にかけてにさらされるのに対し、は多量の雪がたまるため、植物の生育期間がなる。このような立地条件に応じて生育する高山植物の種や群落のタイプが異なる。たとえば前者にはイワウメやなど、後者にはやシナノキンバイなどが見られることが多い。

※出典：水野一晴 著「高山植物と「お花畑」の科学」古今書院

- |              |           |          |          |               |
|--------------|-----------|----------|----------|---------------|
| (ア) 長く       | (イ) 短く    | (ウ) 早く   | (エ) コメツガ | (オ) アオノツガザクラ  |
| (カ) トウヤクリンドウ | (キ) オサバグサ | (ク) 岩塊斜面 | (ケ) モレーン |               |
| (コ) 風衝斜面     | (サ) 風背斜面  | (シ) 高温   | (ス) 低温   | (セ) 暑熱 (ソ) 湿気 |

(動物(鳥類、昆虫類含む))

問 13 次の文中①～⑩にあてはまるものを選択肢から選び、記号を書きなさい。

(同一の番号には、同じ解答(記号)が入ります。)

ライチョウは、ガンコウランや①などの矮性低木、②などの草本をはじめとする、多様な高山植物の葉や芽、花、実を食べる③の鳥である。

そのため、ライチョウは消化が困難な植物性の成分を効率よく分解するために④の助けをかりている。また、高山植物の多くには、草食生物による採食を忌避するためのタンニンやアルカロイド類などの化学物質が含まれており、このような有毒な化合物を解毒分解するためにも④が必要。最近の研究で、産まれたばかりのヒナはそのような④を有しておらず、孵化後まもない期間に母親の⑤を食すことで④を獲得することが示唆されている。

ライチョウは、⑥などの猛禽類や、キツネや⑦などの地上性捕食者に狙われる生きものである。そのため、季節に合わせて環境に溶け込むように羽色を変化させている。繁殖期、雄の上面は黒褐色、雌は焦げ茶色と薄茶色のまだら模様になり、繁殖を終えると雌雄とも上面はくすんだ灰褐色で、雌雄の区別が困難となる。冬季は⑧となり、オスは嘴と目の間が黒くなることでメスと区別が可能となる。ライチョウと同様に、冬季に⑧になる動物は、イタチ科の⑨や本州の東北部や日本海側の積雪地帯に生息する⑩などが知られている。

- |              |             |           |          |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| (ア) 抗体       | (イ) ニホンノウサギ | (ウ) コケモモ  | (エ) 腸内細菌 |
| (オ) シロツメクサ   | (カ) 雑食性     | (キ) ハゲワシ  | (ク) オコジョ |
| (ケ) 植物食      | (コ) テン      | (サ) 黄褐色   | (シ) イヌワシ |
| (ス) イワツメクサ   | (セ) 羽毛      | (ソ) 白色    | (タ) 盲腸糞  |
| (チ) サーベルタイガー | (ツ) ニホンジカ   | (テ) マンゲース | (ト) クロモジ |

(気象、天気図)

問 14 次の説明文にあてはまる気象現象等を記入しなさい。

1. 太陽(月)光が氷の結晶(氷晶)で反射されたり、内部を通る際の屈折の結果見られる光学現象の総称。
2. 一定の圧力のもとで、湿潤空気を冷却して水飽和(相対湿度 100%)に達したときの温度。
3. 発達した低気圧や台風の周辺で、10 分間平均風速でおおむね 15m/s 以上 25m/s 未満の強い風が吹いている領域。
4. 日本付近に現れる気圧配置型の一つ。高気圧が日本の南または南東方から日本列島を覆い、大陸に低気圧がある気圧配置型。夏型ともよばれる。
5. 山岳地域で、日中、周辺の平地から山地へ谷をのぼる風。
6. 立春のころから春分のあいだに、日本海で低気圧が発達する場合などにおこる、その年最初の昇温をともなって強く吹く南寄りの風。
7. 気候が平均状態から大きくずれた状態。過去 30 年の観測統計値のばらつきを基準として、30 年に 1 度生じるかどうかというような状態。

問 15 次の天気記号は、それぞれ何を表しているか記入しなさい。

①



②



③



(登山の常識)

問 16 令和2年の長野県における山岳遭難の発生状況について、あてはまるものを選択肢から1つ選び、記号を書きなさい。

1. 発生件数が最も多い遭難の要因

(ア) 病気 (イ) 道迷い (ウ) 転落・滑落 (エ) 転倒

2. 発生件数が最も多いパーティ人数

(ア) 単独 (イ) 2人 (ウ) 6人から10人 (エ) 11人以上

問 17 次の説明文にあてはまる火山の噴火警戒レベルを記入しなさい。

1. 居住地に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想され、警戒が必要な居住地での避難の準備等が必要。
2. 火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等がみられる。状況に応じて、火口内への立入規制が必要。
3. 火山周辺に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想され、状況に応じて火口周辺への立入規制が必要。

※出典：気象庁ホームページ

問 18 長野県登山安全条例に根拠を持つ「登山を安全に楽しむためのガイドライン」における登山時のマナーや自然への配慮として、正しいものを3つ選びなさい。

- (ア) スペースの限られた場所でテントを設営する場合は、キャンプ指定地以外でもテントを設営すること。
- (イ) ゴミとなるような物を持ち込まず、発生した生ゴミに限り、登山道から離れた場所に捨てること。
- (ウ) 登山用ストックを使う場合は、先端部に保護キャップがついているものを使用すること。
- (エ) 休憩は、転滑落や落石などの危険がない、登山道で休憩すること。
- (オ) 登山時に拾った石を持ち帰らないこと。
- (カ) 外来種の持ち込まれないよう配慮するとともに、登山中は植物を傷付けないこと。
- (キ) 他のパーティに道を譲る場合は、谷側で待機すること。

問 19 新型コロナウイルス感染拡大を受けて長野県が発表した「登山者への5つのお願い」の内容として、誤りがあるものを2つ選びなさい。

- (ア) 山小屋・テント場の営業確認、事前予約を徹底すること。
- (イ) 体調に不安がある場合は、十分に難易度を落とした山選びをすること。
- (ウ) パーティー内での装備の共用は避け、鎖やはしご等の設備にも極力触れないこと。
- (エ) 感染予防グッズを携行し、ゴミは持ち帰ること。

(セルフレスキュー)

問 20 次の文中の①～⑩にあてはまる用語を記入しなさい。

(同一の番号には、同じ解答(記号)が入ります。)

1. 病気による遭難は毎年一定数発生している。中でも①は、登山中に起こすと遭難に至ることがある。①には、軽い②と重い③、心臓のリズムが乱れる④などがあり、予防法としては登山するときはゆっくりと登り始め、自分の体調を確認することである。
2. 足がつることは良くあることだが、登山をしている時にもっともつりやすいのは、下ももの裏側にあるふくらはぎである。ここがつることを⑤といい、予防法としては、出発前にサポートタイツを履いて足の負担と疲労を予防、軽減させる。ウエアは下腿を⑥のように配慮し、出発前には入念な⑦をする。登山中はスポーツドリンクや、塩分の入った水分をしっかり飲む。脱水や血液中の塩分のアンバランスは、足がつる大きな原因である。塩飴や梅干しで塩分を補給することも大切。
3. すり傷と切り傷は山でもっとも負いやすいケガである。土の中には思いがけない細菌がいたり、十分に消毒できないことが問題。処置法としては、まず傷口を清潔な⑧で洗い流す。出血していたら、ガーゼなどで患部をおおい、手でおさえて数分圧迫すれば⑨できる場合が多い。布に血液がしみた場合、その布をはがすと再出血してしまうことがあるので、布をその上に重ねる。傷口を心臓より⑩あげると、出血しにくくなる。

※出典：野口いづみ 著「山と病気とケガ」山と溪谷社